

 株式会社 リーテム 〒101-0021 東京都千代田区外神田3-6-10 Tel 03-3258-8586 Fax 03-3251-5805 <http://www.re-tem.com/>

地球も、あの星のように輝きつづけることを願う。

今、私たちの星は
ギリギリのバランスを保っています。



生活一杯の社会

経済中心の社会

環境問題

温暖化

大気汚染

水と食料問題

原子力

自然破壊

貧富格差

人口増加

戦争

エネルギーの
過大消費

不平等

化石燃料

技術力

思考力

政治

行政

国際協力

環境行動

持続可能な社会

もし 誰もが自分のことだけでなく
他人のことも考えることができたなら
争いも 先進国と後進国の歪みも起こらなかったかもしれない

もし みんなが今だけでなく
未来のことまで考えることができたなら
地球はずっと私たちの星のままでいられるはず

だから リーテムは考えます
ひとつひとつの行為は小さくても
みんながまだ使える物をできるだけ捨てないようになれば
とっても大きな原動力になるはずだと

だから リーテムは行動を続けています
少しずつでもみんなが同じ意識を持って
物をずっと大切に使い続けることができれば
いつかはとてつもなく大きな行動力になるはずだと信じて

だから リーテムはたゆまず活動しています
今までは廃棄されてきた物にも新たな命を与えて
世の中に再び返してあげることで
未来へと続く私たちの地球を育む推進力になると願って

あなたは気づいていますか？ どうすれば持続する環境を作れるのかを

リーテムは、「3R*」を基本に
さらに種々の研究やリスクマネジメントを進め、
これからも環境保全について努力を重ねていきます。

*「3R」とはReduce、Reuse、Recycleの頭文字から成る、環境保全への取り組み姿勢を指す言葉です。
Re-Temの社名はRecycle+Technology+Managementの頭文字からとったものですが、
Re-Temの「Re」の中にはRecycleだけではなくReuse,Reduceという意味合いも含む、
幅広い意味での環境保全活動への強い意思表示が込められています。

危機管理

リスクマネジメント 4

REDUCE

リデュース(発生抑制)

リデュース 4
コンサルテーション 4
環境啓発活動 5
地域循環ビジネス 5

REUSE

リユース(再利用)

リユース 6

RECYCLE

リサイクル(再資源化)

リサイクル 6
リーテム処理フロー 7
J・RIC(リサイクルネットワーク) . . . 8

研究

中国との関わり 8
LCA 9
環境会計 9

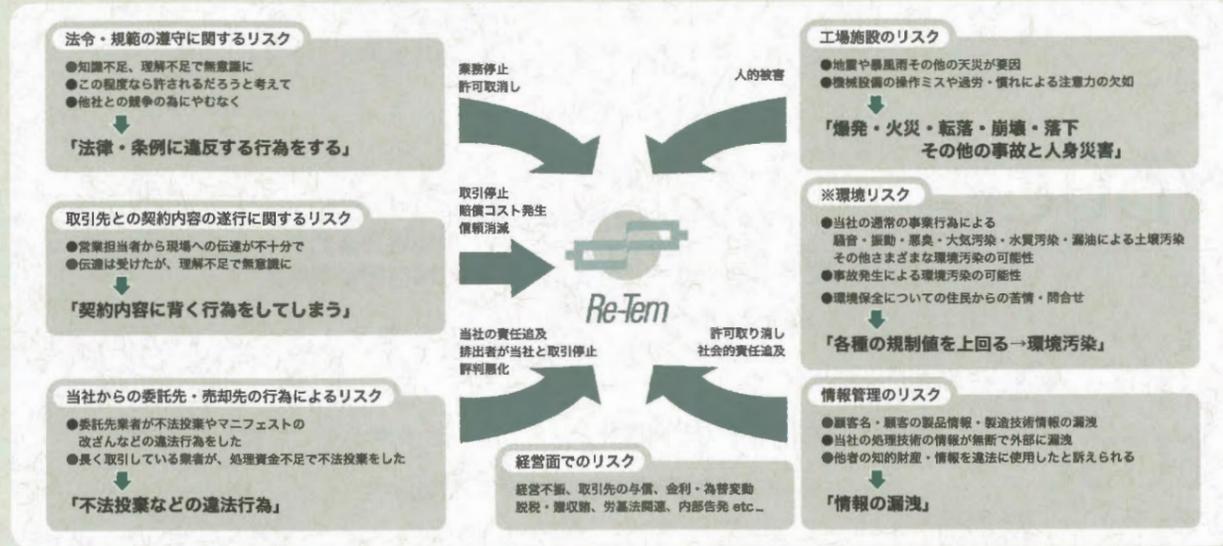
ニュース&トピックス 10

環境マネジメント 11
環境コミュニケーション 14
第三者審査報告書 16
報告書の範囲 16
会社概要・沿革 17

● リスクマネジメント 危機を察知し、未然に防ぎます。

近年、廃棄物の不法投棄や不適正処理の報道が相次ぐにつれ、「環境リスク(下図※印参照)」への社会的関心が高まっています。当社は廃棄物を扱う企業として、特にリスクマネジメント(危機管理)を経営の最重要課題と捉え、管理体制を整備しています。リスクマネジメントチームを主体に、コンプライアンス(法令・

規範の遵守)の徹底、社内外リスクコミュニケーション(社内における意識調査、研修会等の実施、社外への積極的な情報公開)、社内外を取り巻くリスクの評価、分析、対応策の構築をプロジェクトとして進めています。まずは自社でのマネジメントノウハウを確立し、将来的には社外へ広めていくことも考えています。



● 環境啓発活動 社会の環境意識を高めて、行動を促します。

産業構造審議会 地域循環ビジネス専門委員会にて提言
持続可能な社会構築のための当社の取り組みを紹介すると共に、「廃棄物処理における地方自治体と民間事業者との協調」や、「環境・福祉・雇用の三位一体の地域活性化」などを提言しました。

いばらきゼロ・エミッション*推進フォーラムに参加
当社は茨城県主催の「廃棄物問題徹底討論会(いばらきゼロ・エミッション推進フォーラム)」にパネリストとして参加。官・民・市民が一体となった環境ビジネスの推進や、廃棄物処理における地方自治体と民間事業者との協調体制構築の提言をしました。

(社)日本粉体工業技術協会での講演とリーテムの工場見学
(社)日本粉体工業技術協会のリサイクル技術分科会からの要望により、「循環型社会システム構築へ向けて」というテーマで講演を行い、当社の取り組み紹介として水戸工場を案内しました。

茨城県清掃協議会での講演
当社のリサイクルに関する取り組み事例を発表すると共に、法制化されて間もないパソコンリサイクルの現状と当社独自の処理手法を説明し、地域循環型社会構築の為の提言を行いました。

中学生の総合学習への対応
愛知県の中学生在が、総合学習の一貫でリーテム本社に勉強に来られました。「不法投棄問題」や「リサイクルと環境汚染の関係」、「プラスチックの再生」など、学生の皆さんの質問に添って講義をしました。



3R講師として登録
(財)クリーン・ジャパン・センターが、児童・生徒・地域住民に対して、3R学習の支援を行なう「3R講師派遣プログラム」を運営しています。環境分野での経験と知見を持つボランティア講師として当社から2名が登録されました。

※「ゼロ・エミッション (Zero Emission)」
廃棄物ゼロ、埋め立て処分ゼロを意味しますが、最近では循環型社会づくりの重要なコンセプトとなり、「廃棄物を出さない経済社会、地域社会、企業活動」などを表す広い意味をもつキーワードとして使われています。

● リデュース 独自のアプローチからリデュースに貢献しています。

当社で行っているリデュース活動は、世間一般で解釈されている「なるべくゴミを出さない」などの直接的に廃棄物の発生を抑制することだけではなく、リユース&リサイクルの仕組みやノウハウ・考え方などを

広く社会に提供し、結果として廃棄物の抑制に繋げていくことも目指しています。具体的には、コンサルテーションによる各種環境対応のサポート、講演や研修会の講師として環境啓発を行うなどしています。

● コンサルテーション 複雑化する「環境問題への対応」をサポートします。

製品やサービスの差別化に力を注いでいる企業の多くは、企業イメージの向上や真の競争力を高めるために環境側面を視野に入れた活動を強化しています。そのため、廃棄物の適正処理はもとより、今後想定される社会変化に対応した新しいリサイクルシステムの構築、事業の企画・運営のサポート、共同研究の提案など環境活動に関するさまざまな要望が高まっています。当社は企業の廃棄物処理の依頼に応えるだけでなく、お客さまの理念と

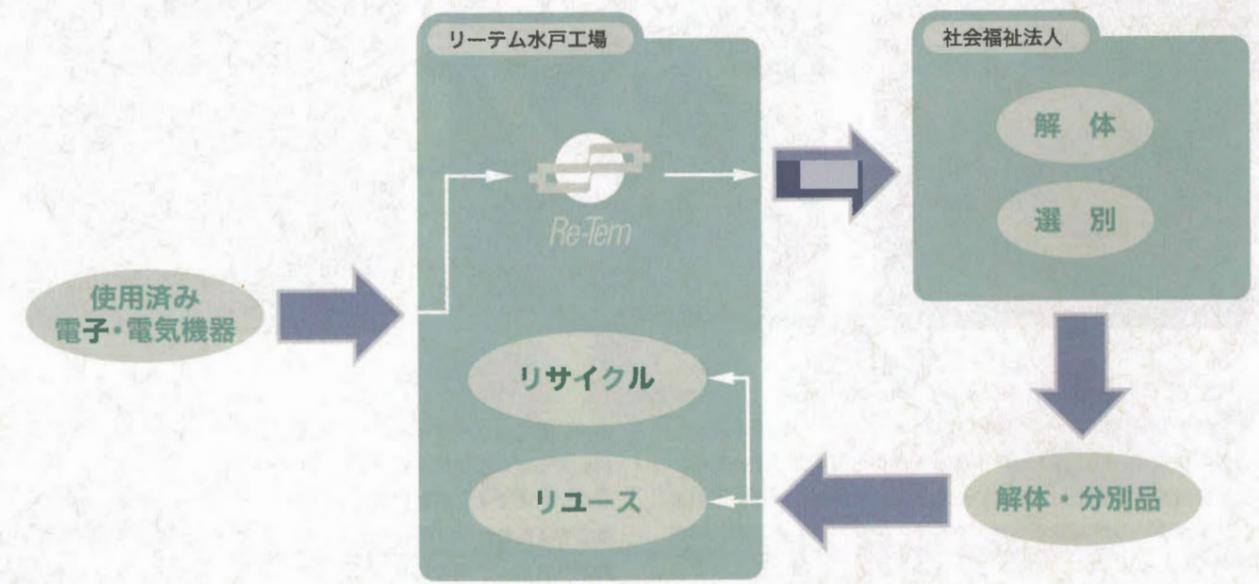
現状を理解したうえでそれぞれの企業に応じた最善の提案を行うことで、個々の環境目標達成のお手伝いをしたいと考えています。たとえば、従来の処理ルート・方法と当社の提案内容を比較・検討することで今まで気がつかなかった側面を発見できます。当社はそれをもとに具体的な改善計画の立案をサポート。お客さまのリサイクル率向上やコスト削減につながるさまざまなノウハウを提供し続けています。



● 地域循環ビジネス 地域のチカラを環境事業に活かします。

社会における環境保全意識が高まるにつれ、今後はより高度な水準での3R(リデュース・リユース・リサイクル)の実施が望まれています。しかし、その実現には素材ごとの細かい分別・解体作業を要するため、多くの人の手が必要になります。そこで、当社では使用

済み電子・電気機器のリユース&リサイクルを、地域の社会福祉法人との協同事業として企画し実現させました。このことは「循環型社会の創造」だけでなく、従来から地域社会において課題とされてきた「障害者の自立支援」といった問題の解決にも寄与するものです。



●リユース 使える部品は可能な限り再利用します。

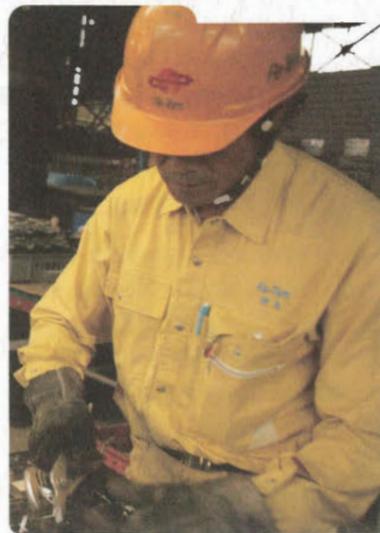
廃製品を構成する部品の中にはまだ十分に機能を発揮できるものが含まれています。当社では製品全体を廃棄せずに使える部品を取り出し、新しい製品の中に組み込んで再利用する「部品リユース」を行っています。一般にリユースというと、「一度不要になった製品をそのまま再利用する中古品」を指す場合が多いのですが、最近では製品だけではなく内部の部品の再利用も行われるようになってきています。

パーツのリユースは、製品全体を破碎し素材として再資源化するリサイクルよりも環境への負荷を小さく抑えることができます。当社では近年この分野を重視し、製造メーカーと提携して、より効率的でスムーズなパーツの回収体制を整備しました。また単なる部品回収にとどまらず、開発当初からパーツのリユースを前提とした設計をするべく、メーカー側との共同研究を進めることを考えています。

●リサイクル 廃製品を再資源化して社会に戻します。

現代社会は多種多様な製品を生産・使用しているため、廃棄される製品も膨大な量になります。特に急激に進む情報化社会の中で、パソコンなどのOA機器は製品のライフサイクルが短く多量に廃棄されているのが実情です。これらのOA機器は金属とプラスチックの複合製品なので従来のシステムでは再資源化が難しく、リサイクルの原料としては敬遠されてきました。そこで当社では独自のリサイクルシステムを確立し、破碎機投入後の分離・回収を徹底することで複合材の再資源化を実現しています。OA機器は、鉄や銅・アルミニウムなどの金属やプラスチックといった多種の素材が複雑に組み合わせられた製品であるため、再資源化

することがとても困難で、効率のよいリサイクルへの障害となってきました。当社では廃棄製品破碎後に風力・磁力・篩(ふるい)・浮揚力を利用し、素材ごとの選別を徹底するシステムを開発しました。このリサイクルシステムによって、廃棄された製品は「鉄」「アルミ」「非鉄金属混合樹脂」「貴金属混合物」「粉体回収物」に選別されます。また破碎とは別工程で、廃製品から手選別により「プラスチック」なども素材として回収されるようになりました。その後、これらの素材は精錬所・再生樹脂メーカーによる加工処理で原料として再生され、再び新しい「製品」の一部として社会に戻っていきます。

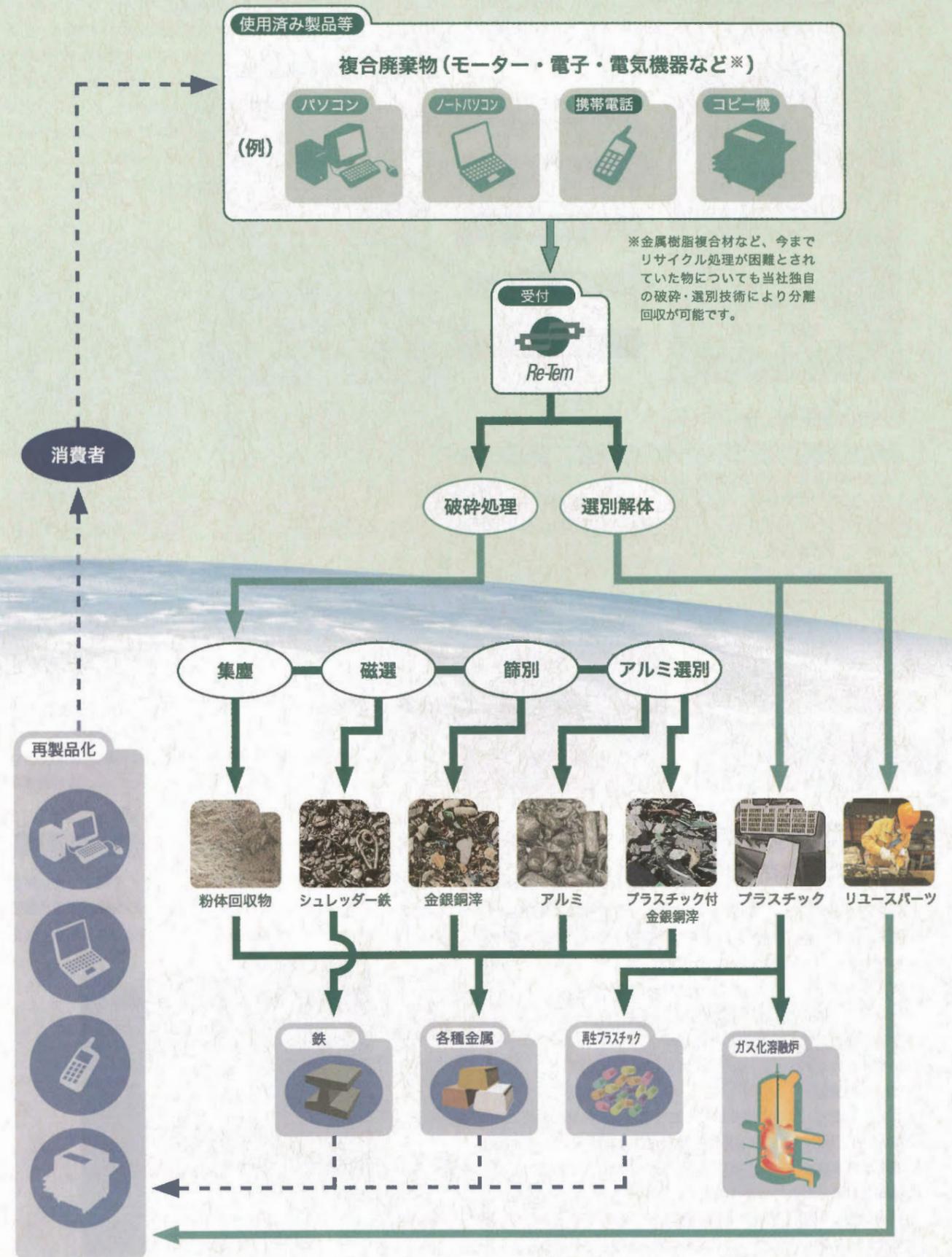


廃プラスチックのリサイクルシステム

製品の中でもプラスチックを使用したものは数多く、その成分もまた多様です。プラスチックの種類や混在状況によっては素材として再資源化することが難しいため、焼却されたり埋立てに回るケースが多いのが実情でした。そこで、近年では高温溶融処理でプラスチックをガスに還元する「ガス化溶融炉」が注目されてい

ます。適切な温度管理を行うことでダイオキシンの発生が抑えられ、スラグなどの残留物も有効利用でき、廃棄物がほとんど発生しないためです。当社では、より総合的なリサイクルシステムを確立するために(株)住金リサイクルのガス化溶融炉の事業に参画。廃プラスチック類の集荷を担当しています。

●リテム処理フロー



● J・RIC (リサイクルネットワーク) 全国同一水準のリサイクルサービスを提供します。

リーテムが代表幹事会社となり、全国どこでも同一の水準で再資源化が可能なリサイクルネットワーク「J・RIC」を組織

しています。現在全国31社、50拠点にネットワークを敷き、顧客の利便性を重視したサービスを提供しています。



2003年度処理実績

項目	処理量
情報機器販売会社什器備品	342t
ビール自動販売機	1,400台
ビールサーバー	240t
コンビニ什器備品	561t
OA機器、ATM/CD等	1,146t
タバコ自動販売機	28,075台

● 中国との関わり

協調から共存へ向けて変化しています。

近年、日本の製造メーカーの多くが中国に生産拠点を移動しています。そのため、中国においても日本国内と同様、「生産-消費-リサイクル」という循環型経済の仕組みを構築する必要があります。現在、大量のリサイクル原料が日本から中国へ輸出されていますが、一方ではその仕組みを隠れ蓑にした違法な廃棄物も日本から中国へ輸出され、環境汚染が転嫁されています。もはや中国へのリサイクル原料輸出は歯止めが利かないことを理解し、中国における環境配慮（コンプライアンス・汚染防止など）を熟慮することが必要です。国内で無害化したリサイクル原料を現地の法規制を守って輸出することが当社の当面の課題であると認識し、中国国家環境保護局の方々をはじめとする中国のさまざまな環境関連組織との情報交換を続けています。今後は、そうして得た情報と長期にわたって築きあげられた信頼関係を活かし、より優れた環境ビジネスの研究につなげていきたいと考えています。



▲中国大倉市市長との会見

● LCA リサイクル過程における環境負荷を考えています。

LCA (ライフサイクルアセスメント)って何？

物が「生まれてから一生を終えるまでの間(ライフサイクル)」にどれだけ環境負荷を与えたかを測る手法のことです。製品にたとえるなら、たとえばパソコン1台を作るために地球からどのように資源を採取して、製造時にどの位のエネルギーが必要か、使用時にはどうなのか、リサイクルやリユースができるのか、廃棄されたらどんな影響があるのか...といったこれらすべての過程で“環境にどんな影響を与えているか”を把握することができるのです。

その手法はどう利用できるの？

たとえば宝石を身につけて出かけても環境への影響や廃棄について考える事は少ないでしょう。しかし、ダイヤモンドやルビーなどの宝石の素=原石を採掘する時に自然環境に負荷を与えてしまっています。その他にも使用する時にはほとんど有害物質が発生しない製品でも、生産時や廃棄される時にCO₂発生量が多い製品もあります。LCAのデータを利用すれば、同じ機能を持つ2社の製品や、旧型製品と新型製品の環境負荷を比べることもできます。



国外のLCA調査研究グループの工場見学

タイの企業・研究機関・大学でリサイクル・LCA・エコデザインに関する政策や制度の整備及び研究に携わる技術者グループ30名が、2003年12月にリーテム水戸工場を見学。当社が実施した廃棄物処理のLCAデータ収集分析について熱心な質問を多数受けました。



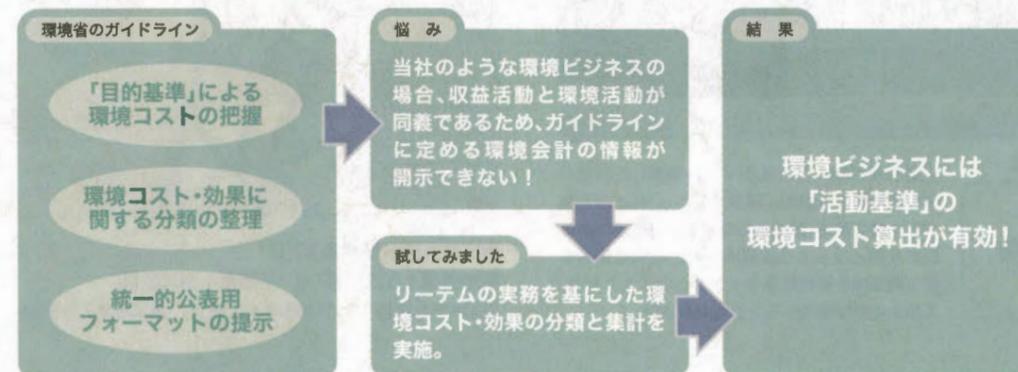
● 環境会計 環境ビジネスにおける環境会計を考えています。

環境会計って何？

企業の環境活動にいくらかお金がかかり、どの位効果があり、次年度の予算はどの位必要かを判断する材料になるのが環境会計です。

環境会計はどう利用できるの？

環境会計なら、環境活動の為にかかったコストと効果を定量として測定して表現することが可能です。そのため“第三者への説明が簡単になる”という大きなメリットがあります。



●『第2回 日本環境経営大賞』環境経営優秀賞受賞

2004年3月に『第2回 日本環境経営大賞』の最終審査の結果、リーテムは環境経営の理念に基づく実践活動とその成果が認められ『環境経営優秀賞』を頂きました。

日本環境経営大賞とは？

環境先進自治体として知られる三重県が運営事務局となり、全国の企業、NPO、学校などのあらゆる組織の「環境経営」の中から優れた成果を挙げている団体を表彰する制度で、官民両分野の環境専門家から成る審査委員会が審査を行うものです。



▲2004年5月表彰式の様子

＜評価のポイントはこんな点でした＞

- 環境保全の取り組みが企業の「総合的な競争力」向上につながっているか？
- 環境保全の取り組みがもたらした、経済的・社会的な成果は？
- 企業の経営方針に環境戦略を明確に位置づけているか？…など

●東京工場建設計画

リーテムは、東京都が廃棄物問題の解決と循環型社会への変革を推進することを目的に、東京臨海部において廃棄物処理・リサイクル施設の整備を進める「スーパーエコタウン事業」に参画します。

利便性UP

多種多様な製品の一大消費地である東京都に処理施設を設置。より迅速かつきめ細やかな対応が可能になります。

一般廃棄物も適正処理

自治体では処理が困難な金属系粗大ごみも、独自のノウハウにより高効率リサイクルを実現できます。

リサイクルを楽しくわかりやすく

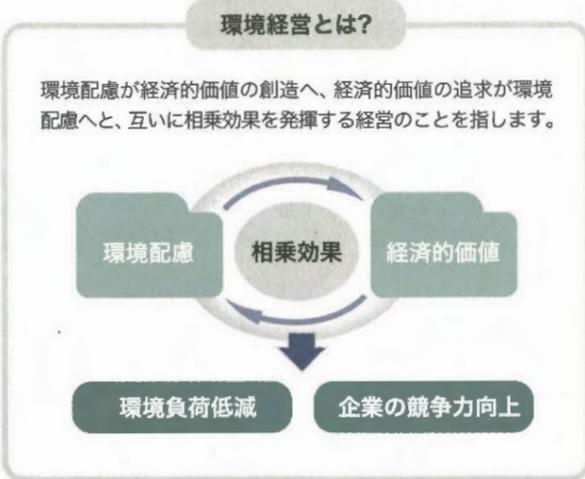
小中学生や一般の方々でも安全に工場見学ができ、わかりやすいように見学専用ルートを設置します。

設計監理 O.F.D.A./坂牛卓一級建築士事務所

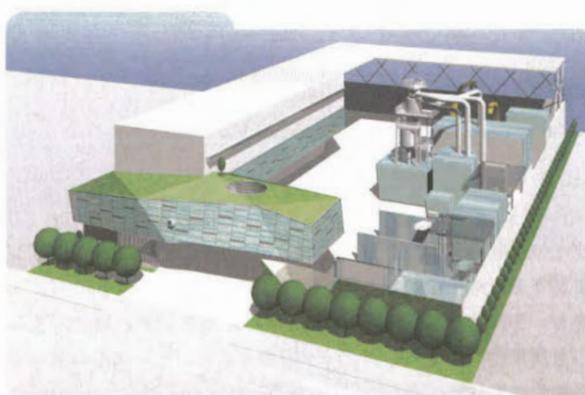


建物/照明

三層構成の横に流れるラインを強調した建物の中に機械群を象徴的に配置することで、工場全体が統一感を持ち、整然としながらも躍動感のある都市景観となるように計画。また、夜間は処理を待つ廃棄物や機械類をライトアップすることで、工場全体が印象的に浮かび上がります。



日本環境経営大賞のウェブサイト
<http://www.eco.pref.mie.jp/kigyou/taisyou/html/dendo/index.htm>



水戸工場との連携

電子電気機器類・情報機器については水戸工場と連携することでゼロエミッション処理が可能です。



東京都大田区城南島3丁目
 敷地面積：5,292.87㎡ 処理量：300t/日
 2004年8月着工 2005年4月竣工 2005年7月稼動

●(株)リーテム環境方針

【基本理念】

(株)リーテムは、事業活動を通じてリサイクルの向上に貢献するとともに、事業活動すべての面で社員全員参加のもと、地球環境の保護及び保全に対して積極的に行動する。

【基本方針】

1. 資源の有効活用のために、さらに積極的にリサイクルの質の向上を図りかつ高度な処理技術・プロセスを開発することにより、地球環境の保全に努める。
2. 地球環境の保護・保全活動を推進するために環境活動組織を整備し、環境関連法規・条例を遵守するとともに自主基準を設定し、環境管理の向上に努める。
3. 環境管理の重点項目
 - ① 有効な成分を含んだ原料としての廃棄物の適正な管理を行いリサイクルの向上に努める。
 - ② 電気・油のエネルギー資源を有効に活用し、使用量の削減に努める。
 - ③ 水戸工場で受け入れるすべての物の収集運搬・荷受・事前選別・破碎処理・搬出に至る全工程において事故の発生防止と環境汚染の予防に努める。
4. 環境方針達成のために、環境目的・目標を定め定期的に環境保全活動の見直しを行い、環境管理システムの継続的改善を図る。
5. 内部環境監査の実施により環境管理システムの維持向上を図る。
6. 関係官庁をはじめ地域住民・環境保護団体とのコミュニケーションを図り、環境保護・保全活動に貢献する。
7. 全社員への教育・訓練を実施し、環境方針を周知徹底し意識の向上を図る。
8. この環境方針は社内外に公表する。

平成 12年6月10日制定

●環境マネジメントシステムの組織体制と役割

2001年1月11日にISO14001の認証を得て以来、当社の環境マネジメントは社長を最高責任者とした体制で運用しており、社長に任命された環境管理責任者が環境管理委員会を主催する仕組みです。この委員会では事務局も交えて多くの議題の調整を図り、実務責任者である部課長に伝達。部課長の指導の下、全社員が環境マニュアルに従って環境保全活動に取り組んでいます。また、営業戦略会議と工場運営会議を週1回開催して、営業と現場とが一体となって環境確保と推進に取り組んでいます。尚、内部監査委員には各部署の研修機関での講習受講者10名が任命されています。

●環境マネジメントシステム監査

環境マネジメントシステムの監査手段としてJICQA監査員による年1回の外部審査だけでなく、定期的かつ適宜必要に応じた社内部署による相互監査を行っています。昨年11月にはJICQAによる更新審査があり、18件の改善・要望事項としての指摘がありました。一方、2003年度の内部審査では32件の「軽微な不適合」を除いては重大な指摘はなく、32件については適切な是正と確認を実施しています。

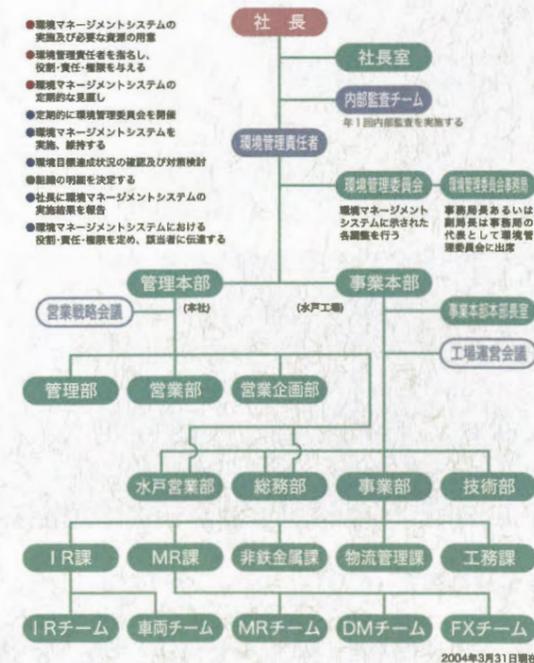
●環境情報への対応（苦情・要望等）

当社では地域住民・顧客・行政から工場に寄せられる環境に関する苦情や要望、さらに従業員からの意見を環境情報として捉えています。具体的には、社内伝達・対応・処理するシステムを運用していますが、2003年度には入荷物不足（294個中、1個不足）が発生しました。運送会社に原因調査を依頼したところ、本件についての原因説明及び今後の再発防止策の報告を受けました。

●緊急事態への準備と対応

緊急事態発生の際の連絡体制と対応処置を明確に定めています。さらに、その連絡体制が書類上の規定にとどまり、「現実の緊急時には使えない」ことがないように連絡網を定期的に更新し、従業員教育・訓練を実施しています。

リーテム組織体系



2004年3月31日現在

●環境目的・目標

当社は、事業活動から生じるプラスとマイナスの環境側面を併せて抽出・評価し、特定の環境側面における定常状態、非定常状態、緊急事態の各々の環境影響を評価しています。その結果から、環境

影響の著しい項目を決定し、環境目的・目標を作成。前年度の運用成果に応じて独自の是正・予防の手順に基づき、翌年度の目的・目標の見直しを行っています。

●環境会計によるコスト集計

環境保全活動のためのコストを、当社の環境目的に対応したコスト(積極コスト)、法規制遵守のためのコスト、環境マネジメントシステム運用・管理コスト(EMSコスト)の3つに分類。

今年度の目標に対応するコストと効果の情報を翌年以降の活動の効率化に役立てるため、コストマネジメントを確実に続けています。

環境目的・目標

2003年度の環境会計(単位:千円)

環境側面項目	責任部署	目的(2005年度達成を目指して)	2003年度の目標	達成方法(具体的取り組み)	投資	コスト	達成状況(環境効果)	2004年度の目標	2005年度の目標	
原料(プラスの側面)	廃OA機器等、 廃モーター・コンプレッサ P-1での生産量	管理本部 事業本部 (MR・P-1)	生産量に伴う環境負荷低減への寄与 1999年度を基準に 3年間で30%生産増	生産量 1999年度比20%増 (累計50%増)	①処理量確保のための 積極的な営業活動 ②処理能力の向上 処理稼働率の向上 処理単位時間当たりの 処理量の向上 ③手解体のライン化、標準化	46,263	14,008	生産量20%増の目標値に対して P-1は106.2%でありましたが 非鉄金属は原料ソースの製造変化 (生産拠点の海外シフト、 中古市場のグローバル化等)により 88.7%の達成率に止まりました。	生産量 1999年度比5%増 (累計55%増)	生産量 1999年度比5%増 (累計60%増)
	実装基盤等、携帯電話・ ポケットベル P-2での生産量	管理本部 事業本部 (MR・P-2)								
	解体作業の 非鉄金属での生産量	管理本部 事業本部 (非鉄金属)								
未処理堆積物の削減 (プラスの側面)	工場共通項	3年間で未処理堆積物40%削減	20%削減 (累計35%削減)	①処理実施人員・費用の 計画的確保		11,123	129.5%の達成率となりました。	10%削減 (累計45%削減)	10%削減 (累計55%削減)	
電力の使用	MR・P-1 全般	MR・P-1	電力原単位(生産量当り)の低減 2000年度下期を基準に 3年間で3%削減	原単位1%減 (累計3%減)	①安定負荷操業による 稼働率向上 ②点検補修強化による 稼働率向上		21,636	P-1原料入荷減による原単位増で 92.6%の達成率に止まりました。	原単位1%減 (累計4%減)	原単位1%減 (累計5%減)
	切断機(シャワー)	IR	電力原単位の低減 2001年7月~2002年3月実績を 基準に3年間で3%減	原単位1%減 (累計2%減)			1,663	104.9%の達成率となりました。	原単位1%減 (累計3%減)	原単位1%減 (累計4%減)
	電灯、その他	水戸工場 事務所共通	電力使用量の低減 2001年10月~2002年9月実績を 基準に3年間で3%減	使用量1%減 (累計2%減)	①不在・長時間離席 (1時間以上)時の消灯 ②不在・長時間離席 (1時間以上)時の パソコン電源の切断		451	120.5%の達成率となりました。	使用量1%減 (累計3%減)	使用量1%減 (累計4%減)
	電灯、その他	本社共通	電力使用量の低減 2002年度実績を 基準に3年間で3%減	使用量1%減			945	97.2%の達成率に止まりました。	使用量1%減 (累計2%減)	使用量1%減 (累計3%減)
漏油の発生	選別	IR	地下浸透防止	コンクリート舗装 1,000㎡(累計3,500㎡)	①選別場床の不浸透化 (コンクリート舗装化)	4,945	1,834	122.0%の達成率となりました。		
環境目的に対応したコスト(積極コスト)						51,208	51,660			

環境関連法規制の遵守のためのコスト	①水質管理 ②騒音・振動・悪臭管理 ③廃棄物管理	42,166	環境関連法規制の遵守を 徹底しました。
ISO14001環境マネジメントシステムの運用・管理コスト(EMSコスト)	①環境審査の定期的実施 ②EMS連絡会の運営 ③社内の環境教育 ④環境報告書の作成	14,540	上記環境目的・目標を達成し、 環境マネジメントシステムの 維持的改善を進めました。
合計		51,208	108,366

表の説明

- ◆該当期間：2003年4月~2004年3月
- ◆設備投資費用：初期投資額を「投資」として計上しています。減価償却費を含めていません。
- ◆生産量：手解体およびリーテムプロセスでの処理量を、「生産量」と定義しています。
- ◆掲載の2004~2005年度の目標は、2003年度時点の環境目的について設定した計画値です。

●未処理堆積物

リーテム水戸工場の一角に、過去の鉄スクラップ引取りの際に発生した鉄、非鉄、陶器などの堆積物が保管されています。当社ではこれらの処理を重要課題と捉えて処理目標値を設定し取り組んで

きましたが、処理の完了をできる限り早める為に2003年度は目標値を当初の倍にあたる1,300㎡としました。その結果、目標を大幅に超えて1,684㎡となり、129.5%の達成率を実現しました。

●土壌汚染

荷卸し時や選別作業の際には機器や装置などの搬入物から残留油が漏出し、土壌を汚染する可能性があります。そのため、当社では土壌汚染を著しい環境側面であると捉え、選別場の床をコンクリート舗装

することで不浸透化を進めています。その結果、2003年度は目標値1,000㎡に対して1,220㎡を達成し、運用開始時以降の累計では目標値3,500㎡に対し5,160㎡と、約1.5倍の達成率を実現しました。

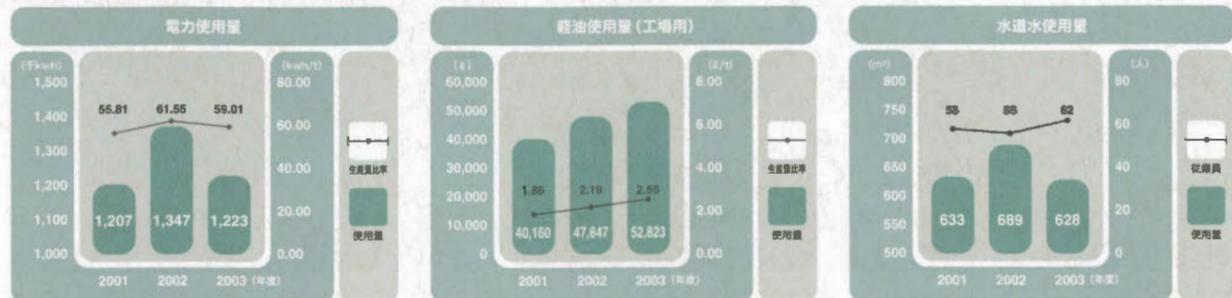
2001年度～2003年度 環境目的・目標に対する生産達成状況



2003年度・事業活動実績値

電力使用量	水戸工場：1,222,968kwh 本社：43,633kwh
軽油使用量	トラック：40,028 ℓ 工場用：52,823 ℓ
ガソリン使用量	1,928 ℓ
水道水使用量	水戸工場：628m ³ 本社：205m ³
潤滑油使用量	128kg
廃棄物	1,049,134kg
フロン(受託回収量)	364kg

●水戸工場での主な使用量の直近3年間状況



●主な研修の受け入れ実績

研修期間	研修内容
2003年6月～8月	欧州研修生のリサイクル現場実習

●主な工場見学者の受け入れ実績 2003年度見学者総数：94件

実施年月	団体名
2003年 8月	阪和興業(株)で研修中の学生
2003年10月	東京電力(株)
2003年10月	モトローラ社
2003年10月	水戸市市民環境部ごみ対策課ごみ減量係
2003年10月	パナソニックモバイルコミュニケーションズ(株)
2003年10月	核燃料サイクル開発機構 東海事務所
2003年12月	(財)製造科学技術センター
2003年12月	タイ国のリサイクル・LCA・エコデザイン関連技術者団体
2004年 2月	キヤノン(株)

●講演・寄稿・発表活動

実施年月	主催	講演・寄稿・発表内容
2003年 6月	(社)日本粉体工業技術協会 愛知県幸田町立南部中学校	リサイクル事業推進に向けての現状と課題 「生き方に学ぶ」リサイクル
2003年11月	経済産業省 産業構造審議会	自然との共生、持続可能な社会を目指して
2004年 2月	いばらきゼロ・エミッション推進フォーラム	循環型社会に向けてー私たちにできることー
2004年 2月	茨城県清掃協議会	循環型地域社会のためのリサイクル発展を目指して

●教育・研修

当社では、まず従業員一人ひとりが役割を自覚することが大切だと考えています。その上で目標意識を高めると同時に、確実に環境意識を浸透させるためのさまざまな教育・訓練・啓発を行っています。

区分	対象者	時期	主催・講師	教育内容
ISO	全従業員	日常 月次	環境管理責任者又は、 環境管理責任者が指名した者	環境一般教育訓練
	新入社員	導入教育時		
	部長・課長	毎週	環境管理責任者	環境特定教育訓練
	該当作業者	年1回及び 内部変更時		
	内部環境監査委員	内部変更時	外部講習受講者	監査員教育
外部研修・セミナー・講習会	該当従業員	2003年 5月	持続型LCA研究会	廃棄物経済学と廃棄物産業連関分析
	該当従業員	2003年 5月	パードライフアジア	絶滅野鳥に関するセミナー
	該当従業員	2003年 8月	(株)日本計画研究所	産廃処理システムの問題点と不法投棄対策
	該当従業員	2003年10月	(社)東京産業廃棄物協会教育研修会	廃棄物処理法に基づく電子マニフェスト制度と改正廃棄物処理法
	該当従業員	2003年11月	(独)産業技術総合研究所	第2回環境調和技術研究発表会
	該当従業員	2004年 1月	(社)産業環境管理協会	第4回LCAデータベース活用セミナー
	該当従業員	2004年 3月	(社)資源・素材学会	資源リサイクル部門委員会講演会
該当従業員	2004年 3月	(社)東京産業廃棄物協会教育研修会	産業廃棄物の適正処理のために	

●地域貢献活動

実施年月	活動内容
2003年12月	茨城町からの農業缶の処理
2004年 1月	水戸市農協からの農業缶の処理
随時	・美野里町立中学校がボランティア活動にて回収したアルミ缶の引き取り ・茨城町内の小中学校から発生する廃棄物の処理



▲美野里町立中学校より感謝状をいただきました

●当社が関わる組織・機関

組織・機関名
経済産業省 産業構造審議会 委員
環境省 中央環境審議会：廃棄物・リサイクル部会、家電リサイクル専門委員会
いばらきゼロ・エミッション推進会議 幹事・設立発起人
社団法人日本鉄リサイクル工業会 環境対策委員会 委員長
社団法人茨城県産業廃棄物協会 理事
アルミニウムリサイクルトータルシステム調査委員会 委員

● 第三者審査報告書

第三者審査報告書

株式会社リーテム
代表取締役社長 中島 賢一 殿

平成 16 年 7 月 1 日

株式会社トーマツ環境品質研究所
代表取締役社長 古室正充

- 1. 審査の目的**
当環境品質研究所は、株式会社リーテムの責任において作成された同社の「環境報告書 2004」を日本公認会計士協会で公表された経営研究調査会研究報告第 13 号「環境報告書保証業務指針（中間報告）」を参考に審査を行った。
当環境品質研究所の審査の目的は、主として同報告書において報告されている重要な情報の正確性について、実施した手続の範囲内において、独立した立場での意見を表明することである。
- 2. 審査の手続**
当環境品質研究所は、「環境報告書 2004」について以下の審査手続を実施した。
(1)掲載されている情報について、集計表とその基礎資料とのサンプリングによる照合及び担当者への質問等により、情報の集計とその計算方法の合理性・正確性を検討した。
(2)掲載されている情報について、作成責任者・担当者に対する質問、関連する議事録・規程等の閲覧・照合、ISO 関連資料の閲覧・照合、工場往査、その他根拠資料となる内部資料及び外部資料で利用可能なデータと比較し検討した。
- 3. 結論**
審査の結果、当環境品質研究所の意見は、次の通りである。
(1)「環境報告書 2004」に掲載されている情報は、株式会社リーテムの業務から出された情報を適切に集計したものである。
(2)「環境報告書 2004」に掲載されている情報は、当環境品質研究所が審査の間に入手した根拠資料と矛盾していない。

以上

(参考)
当環境品質研究所は、国際会計事務所デロイト トウシュ トーマツのメンバーファームである監査法人トーマツのグループ会社です。

● 第三者審査手続の補足説明

第三者審査報告にあたり、審査手続の概要を補足説明として以下に示します。



● 報告書の範囲

本報告書は、株式会社リーテムの全事業所(本社及び水戸工場)における2003年度(2003年4月から2004年3月)の事業活動を対象としています。尚、一部同期間以降の報告も含まれます。次回発行は2005年夏を予定しています。問い合わせ先:株式会社リーテム 企画部 電話03-3258-8586

● 株式会社リーテム

本社 〒101-0021 東京都千代田区外神田 3-6-10
TEL 03-3258-8586 FAX 03-3251-5805
E-mail: info_tokyo@re-tem.com

水戸工場 〒311-3116 茨城県東茨城郡茨城町長岡3520
TEL 029-292-1220 FAX 029-292-1225
E-mail: info_mito@re-tem.com

資本金 3,600万円
代表取締役 中島 賢一
創業 明治42年(1909年)
会社設立 昭和26年(1951年)
事業内容 OA機器・電子電気機器類のリサイクル
鉄系複合材のリサイクル
製鋼原料及び非鉄貴金属原料の売買
建築物及び工作物の解体、移設、撤去
リサイクルシステム販売及びコンサルティング

ウェブサイト <http://www.re-tem.com/>

売上高の推移 (単位:百万円/概数表示)



沿革

- 平成 5年(1993年) 9月 リーテム・リサイクルシステム(プロセス1)導入
- 平成 8年(1996年) 3月 平成7年度再資源化開発事業 (財)クリーン・ジャパン・センター(CJC)会長賞 受賞
- 平成 9年(1997年) 4月 社名を株式会社リーテムと改める (財)CJCの実証プラント/リーテム・リサイクルシステム(プロセス2)稼動
- 平成 9年(1997年)10月 本社を東京都千代田区に移転する
- 平成10年(1998年) 7月 リサイクルの全国ネットワーク J-RICを組織化
- 平成12年(2000年) 3月 茨城県リサイクル優良事業所に認定される
- 平成13年(2001年) 1月 環境マネジメントの国際規格ISO14001認証取得(登録番号E214)
- 平成13年(2001年) 6月 環境報告書発行開始
- 平成14年(2002年)10月 廃棄物処理プロセスのLCAデータを収集・解析(経済産業省委託事業)
- 平成15年(2003年)12月 東京都「スーパーエコタウン事業」事業実施計画が承認される
- 平成16年(2004年) 3月 第2回日本環境経営大賞 環境経営優秀賞受賞

環境音楽CD発行について

今年は「環境や自然と技術や人間との関わり合い」というテーマのもとに、3組のアーティストが工場内の機械音や作業音・周囲の音を環境音として捉え、曲の中に取り込んで再構成した「環境音楽」を作成しました。環境音楽CDをご希望の方は、下記までご連絡ください。

連絡先:株式会社リーテム 企画部 TEL:03-3258-8586 E-Mail: info_tokyo@re-tem.com